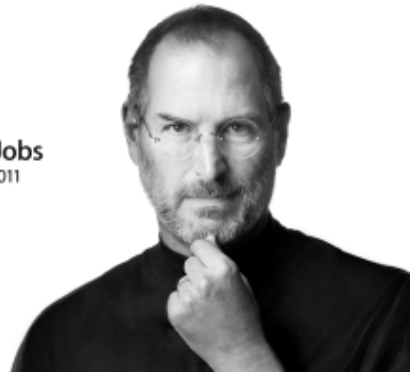


# アップル社 創始者ジョブズの若い頃

2011年に死去した伝説の人、アップル社の元CEOジョブズはシリア人の留学生で政治学者の父親とアメリカ人の母親の間に生まれている。アイホン、iPadなどの画期的商品で世界的な評価を受け、アップル社の時価総額は2012年3月、40兆円を越え、日本の電気メーカー8社合計の3倍に達している。

2011年10月6日、アップル社の創業者であり前CEO（最高経営責任者）、さらに現ウォルト・ディズニー取締役のスティーブ・ジョブズ氏が死去したと米アップル社が発表した。ジョブズ氏は56歳で膵臓がんで闘病中だった。同社のオフィシャルサイト (<http://www.apple.com/>) のトップページは、モノクロのジョブズ氏の写真と「スティーブ・ジョブズ 1955-2011」とだけ表示され、唯一無二である偉大な創業者の死を悼んだ。

Steve Jobs  
1955-2011



アップル社のサイトには、「アップル社は深い洞察力を持った空想家を失いました。そして世界は創造的な天才を失いました。スティーブと働くことができた幸運な人たちは親愛な友人と師を失いました。スティーブは唯一無二の会社を遺します。彼の精神は永遠にアップルの礎となります」と追悼の遺言が掲載された。

1955年、シリア人の政治学者、アブドゥルファター・ジャンダリとアメリカ人の大学院生ジョアン・シンプソンの間に生まれる。ジョアンの父が、シリア人であるアブドゥルファターとの結婚を認めなかったため、誕生以前から、養子に出すことに決められていた。結果、スティーブはポール・ジョブズ、クラリス・ジョブズ夫婦に引き取られることになった。ジョアン・シンプソンは、ジョブズ夫婦が大学卒でないことを知り、養子縁組を躊躇したが、ジョブズ夫婦が彼を大学に進学させることを約束して、縁組が成立した。ジョブズが、実の母と再会するのは、彼が30歳を過ぎた頃である。

あこがれのヒューレット・パッカド社のビル・ヒューレットとの出会いが、ジョブズの未来を決めた。



左がビル・ヒューレット

ビル・ヒューレットとデビッド・パッカドが共同で作った会社がヒューレット・パッカド



1968年、ジョブズが13歳のとき、あこがれのヒューレット・パッカド社のビル・ヒューレットの自宅に電話をかける。ビル・ヒューレットはパロアルトに住んでいることを知っており、電話帳で調べてみたところ、パロアルトで、ビル・ヒューレットの名前で掲載されているものはひとつしかなかった。ジョブズが周波数カウンタの部品をくださいと言うと、部品をくれたばかりか、夏休みにアルバイトをしないかと持ちかけられた。もらった仕事は、ヒューレット・パッカドの支社で、周波数カウンタをつくっているところだったという。

1971年、高校生になったジョブズは、ヒューレット・パッカドの夏季インターンシップで働いていた時に、スティーブ・ウォズニアク（ウォズ）と出会う。容姿も性格も正反対の2人であったが、すぐに意気投合した。ある時、ウォズの母親からもらった「エスクァイア」誌1971年10月号に掲載されていたブルー・ボックスと呼ばれる装置を使って、無料で長距離電話をかけるというフリーキング（不正行為）の記事を読んだ2人は、スタンフォード大学の図書館に入り込み、AT&T（ベル社）の技術資料を見つけ出して、自分たちでオリジナルのブルー・ボックスを作り上げた。2人は、この装置で長距離電話をかけまくったという。ウォズは、この装置を作ったことで満足したが、ジョブズは、当時ウォズの通っていたカリフォルニア大学バークレー校の寮で、1台100ドルから150ドルで売りさばっていた。装置自体は1台40ドル程度で、大いにもうかったようだが、そのうち銃で脅されるような状態になり、身の危険すら感じたジョブズは、一切の販売を止めてしまう。

1972年、オレゴン州の「リード大学」へ進学。大学時代の彼はヒッピー思想・禅・サイケデリックドラッグに心酔し、裸足で校内を歩き、一時は風呂に入らない時期もあったという。またかなりの音楽ファンであり、ビートルズやグレートフル・デッドなどを聴きまくっていた。ジョブズは大学に半年間通ったが、興味のない必修科目を履修することを嫌がり、「両親が一生をかけて貯めた学費を意味のない教育に使うのに罪悪感を感じた」ために中退してしまう。しかし中退した後もリード大学 (en:Reed College) のキャンパスを放浪し、コーラの空き瓶拾いや心理学科での電子装置修理で日金を稼ぎながら、哲学やカリグラフィー（西洋書道）など興味のあるクラスだけを聴講するもぐりの学生として過ごし、合計18ヶ月をリード大学に費やした。